

竜丘の文化の祭典、今年も盛大に開催 ～第28回 竜丘地区文化祭～



発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館広報委員会
印刷所
龍共印刷株式会社
飯田市上郷黒田 ☎22-5353

人口 6,914人
男子 3,362人
女子 3,552人
世帯数 2,540戸
(28年10月末現在)

十一月五日・六日の二日間、竜丘地区文化祭が開催されました。今年は二日間とも晴天に恵まれ、多くの来場者が地域の歴史・文化・食・産業等に触れることができました。

第一日目

開会セレモニーでは、公民館長の「時代がIT化、ハイテク化する中にあっても、公民館は素人がローテクを駆使し、工夫をしながら地域をよくする活動を行う場所。その発表の場としての文化祭を大いに楽しもう。」というあいさつに続き、緑ヶ丘中学校合唱部の合唱と、吹奏楽部の素晴らしい演奏で二日間の幕が開けました。展示の部では、教室・グループの日ごろの成果のほか、小中学生、保育園児の力作、分館や委員会の活動



屋外では消防自動車写真大会と消火器体験、森のクラフト・竹細工の体験、救命救急体験、ガーデニング寄せ植え講習会、トンボ玉製作と、多くのイベントが目白押しで、親子で楽しむ姿が多数見受けられました。恒例の喫茶軽食コーナーでは、今年も手打ちそば、ケーキ、大学イモなどが文字どおり飛びように売れ、来場者のお腹を満たしていました。そばの会野楽路、おいしんぼブラザ、自由学校のみなさんは、これまた文字どおり目の回るような忙しさで大変だったのではないのでしょうか。

その他にも図書館の折り紙体験や紙芝居のお楽しみ会、自由学校による抹茶の提供、アマチュア無線電子工作、食生活改善推進協議会の試食コーナー等盛りだくさんの催しものでにぎわいました。



特別企画展「竜丘のモノづくり」

第二日目

二日目は屋外ステージ発表からスタート。時又保育園のマーチングバンドと竜丘保育園の元気いっばいのお祭り踊りに続き、妙齢？の女性陣による駄科音頭とフラダンス、最後は小学校四年生のボールダンスと、例年より多くの発表となりました。商工会竜丘支部による屋



子どもに大人気のクラフトコーナー

使ったクリスマスリース作りなど、前日からのイベントに加え、さらに多くのイベントでにぎわいました。また、体育館では「ユーススポーツ」スラックラインと「ガラクキ」の体験が行われました。スラックラインはベルト状の綱の上でバランスを取り、



大にぎわいの喫茶・軽食コーナー
スタッフも大忙し！

まさかの2年連続中止 ～運動会、雨には勝てず～

十月九日に開催予定であった竜丘市民運動会が、雨天により中止となりました。昨年に引き続き二年連続の中止となり、このようなことは前代未聞です。この日のために体育委員会を中心に地区全体で準備を進めてきたのに残念でなりません。中止決定により、用意した多くの景品は分館ごとに配



来年こそは、ぜひ！

布されました。来年こそは、青空の下、盛大に開催されることを願うばかりです。

台販売もいつもどおり終了時間前に完売する好評ぶりだったほか、しんきん若手経営者の会のテントでは、かわいいうちびっ子達がお菓子などを販売し、つい買い物をされる？お父さんたちがたくさんいました。

ほかにも、ボランティアの会によるふれあいバザーや交通安全委員会のチャイルドシート無料配布、水引を使ったクリスマスリース作りなど、前日からのイベントに加え、さらに多くのイベントでにぎわいました。また、体育館では「ユーススポーツ」スラックラインと「ガラクキ」の体験が行われました。スラックラインはベルト状の綱の上でバランスを取り、



大盛況のラスト！宝投げ



図書館 折り紙体験



ニュースポーツ体験「スラックライン」



公共施設や店舗などの駐車場には、障がいのある方(特に車いすを必要とする方)への駐車スペースがあることは多くの方が知っています。しかし、実際には駐車できる台数が少ない上、心ない方が駐車することがあり、本当に必要としている方が使えない状況があります。また、障がい者マークを車に貼っているが、見るからに健康そうなお方が障がい者スペースに駐車しているの見える場合もあります。これは、見た目には分かりづらい障がいを持つ方もいらつしやるからです。こうした障がいに対する相互の理解がなかなか進まないこともあり、いろいろな弊害が発生しています。そんな中、今年から新たな駐車場利用の試みとして、長野県では「信州パーキング・パーミット制度」を開始しました。これは、障がい者用の駐車スペースを適正に利用するために、障がい者・高齢者・妊婦などの歩行が困難な方に、県内共通の「利用証」を発行します。今までの障がい者マークは、量販店でも普通に売っていました。この「利用証」は、一定の交付基準に則り長野県で発行するので、より利用者として明確になります。また、県内だけでなく同じ制度のある県では相互に利用が可能となっています。障がいのある方だけではなく、歩行の困難な方も利用できる制度であるため、広く周知されていくと良いと思います。





第三十八回竜丘市民大学講座「竜丘のモノづくり」が、十月三十日(日)竜丘公民館大ホールにて開催されました。この講座は竜丘でモノづくりに携わる方をお招きし、モノづくりに掛ける想いをお聞きし、産業の視点から竜丘を知る機会とすることを目的とし、桐林にある(有)システムリサーチ代表取締役の牧之内保夫氏と長野原にある山京インテック(株)代表取締役役の中村拓美氏の二名を講師としてお招きしました。

牧之内氏はその後、モノづくりの最初の部分を担う設計会社を経営しています。顧客からの要望をもとに、製品

今年インフルエンザの流行が例年より早いようです。インフルエンザにはA型、B型、C型がありますが、A型は十二月～二月、B型は二月～春先まで流行します。予防の基本はウイルスを撃つことです。インフルエンザは低湿乾燥状態で空中に浮遊しやすいので湿度を保ってウイルスを撃つことが大切です。

保健師さんよりインフルエンザにご注意!!

体内に入れないことです。手洗い、うがい、マスク、避けること、普段から免疫力を高める生活をしましょう。さらに、ウイルスは低湿乾燥状態で空中に浮遊しやすいので湿度を保ってウイルスを撃つことが大切です。

また、インフルエンザの予防接種は症状の重症化予防に効果があります。接種してから体の中に抗体ができるまで二週間かかるので十二月初旬には予防接種を済ませておくといでしょう。インフルエンザにかかったら早めに医療機関を受診しましょう。抗インフルエンザ薬は発症後四十八時間以内に使用すると効果的と言われています。熱が下がっても二日はウイルスが体内に残っているの、他の人にうつさないように自宅で安静にしましょう。



平成十五年鈴岡城址公園の大整備事業が、公園開園百周年の二十三年度完工を目指しスタートした。平成二十二年開園百周年記念実行委員会を発足。記念事業として「記念誌」発行を企画。区民の皆さんから公園に関する写真や資料を募集し、史学会と連携し二十三年五月の百周年記念式典に併せ「鈴岡城址公園のご案内・公園一〇〇年の歩み」のパンフレットを発行、各戸へ配布した。



編集担当 下平隆司

「竜丘のモノづくり」を学ぶ

第三十八回竜丘市民大学講座開催

「飯田古墳群」13基国史跡に指定

―竜丘地区内6基が該当―



塚原二子塚古墳

本年六月十七日、国の文化審議会が「飯田古墳群」十三基について史跡指定の答申を文部科学大臣に行っていました。十月三日付文部科学省の官報に告示され、正式に決定しました。

飯田古墳群は飯田市に五百余基築造された古墳を象徴するもので、天竜川右岸の座光寺から川路に至る間に所在する二十二基の前方後円墳を中心に構成されています。

今回史跡指定されたのは

座光寺高岡第一号古墳・上郷飯沼天神塚古墳・松尾水佐代獅子塚古墳・姫塚古墳・上溝天神塚古墳・おかん塚古墳・御射山獅子塚古墳として竜丘の大塚古墳・塚原二子塚古墳・馬背塚古墳・御猿堂古墳・鏡塚古墳・鎧塚古墳です。

伊那谷では古墳時代中期の五世紀中頃に突如隆盛を迎え、七世紀に至るまで古墳の築造が継続されました。古墳築造の要因は馬の生産活動にあり、四世紀に朝鮮半島から伝えられた馬に関わる文化と技術が五世紀中頃この地の主要な産業・文化となり、ヤマト王権に認められる地位を確立したことによりです。五世紀を代表する古墳が大塚古墳・

九月二十五日(日)公民館「古墳と世界遺産の旅」

委員の研修旅行が行われ、群馬県・築瀬二子塚古墳公園と世界遺産富岡製糸場を視察研修しました。

群馬県・安中市で最近古墳公園として整備された築瀬二子塚古墳を視察しました。

築瀬二子塚古墳は安中市の指定史跡ですが、大きさや形状は塚原二子塚古墳と同じ前方後円墳で、竹と雑木に覆われていた古墳を約

伊地域は日本三大桑園と言われ、製糸(養蚕)が主要な産業として盛んな時代がありました。そんな時代が懐かしく思われました。

富岡製糸場はフランスの技術導入と日本独自の技術開発を進め、絹を大衆に広め生活と文化を豊かに変えました。製糸にまつわる女の歴史は、「あゝ野麦峠」等哀史が語られますが、富岡製糸場は官営のため公務員であり待遇は良く、技術伝習工女として、技術習得後は各地で指導者として活躍した等々建物施設ガイドの方から説明を受け、大変有意義な研修となりました。

「駄科区の一五〇年自治のあゆみ 明日に向かって」発刊について

平成十五年鈴岡城址公園の大整備事業が、公園開園百周年の二十三年度完工を目指しスタートした。平成二十二年開園百周年記念実行委員会を発足。記念事業として「記念誌」発行を企画。区民の皆さんから公園に関する写真や資料を募集し、史学会と連携し二十三年五月の百周年記念式典に併せ「鈴岡城址公園のご案内・公園一〇〇年の歩み」のパンフレットを発行、各戸へ配布した。

「親子で協力」(竜丘保)

「年長さんがんばれ〜」(時又保)